

中国の博物館と中国の近代

中里見, 敬
山形大学教養部 : 講師 : 中国語・中国文学

<https://hdl.handle.net/2324/6469>

出版情報 : 山形大学附属博物館報. 20, pp.3-4, 1994-03-30. 山形大学附属博物館
バージョン :
権利関係 :

中国の博物館と中国の近代

中里見 敬

博物館や美術館は、そもそも近代国家の成立と無縁ではない。そして、近代とは西洋中心主義が普遍だと思われるようになった時代である。秦始皇帝の兵馬俑のような大規模な出土遺跡をはじめ

とする4000年の文明を誇る中国の博物館にも、近代国家事業としての意味が深く刻み込まれている。



さて、中国一有名な博物館といえば、**故宮博物館**であろう。天安門広場から毛沢東の肖像画をくぐって中に入ると、そこは明清二代の皇帝のかつての宮殿、すなわち故宮である(写真1)。とはいえ、清朝の皇帝は河北省承徳の避暑山荘で夏を過ごすのが恒例で、北京の宮殿で一年中暮らしていたわけではない。西太后は、北京では**頤和園**や**円明園**で過ごし、宮殿は祭祀のときに来る程度だったらしい。そんな故宮は、現在博物館として公開されており、宮殿建築が保存されているだけでなく、書画骨董や外国使節から贈られた品物などが陳列されている。しかし、故宮所蔵の最も価値ある品々は、日本の侵略を逃れて各地を転々としたあげく、国民党の軍艦で台湾へ運び去られ、現在台北にあるもう一つの故宮に収められている。

中国の博物館は略奪の歴史に飾られている。最も有名な例は、北京原人だろう。北京市郊外の周口店で発見された旧石器時代の人骨は、すでに半世紀以上も行方不明のままである。

敦煌莫高窟で今世紀初頭に発見された1000年前の写本は、大部分がスタイン、ペリオといった西洋の学者によって持ち去られ、現在大英博物館やフランス国立博物館の所蔵に帰している。日本にも大谷探検隊によってもたらされ、東京国立博物館、龍谷大学、大谷大学などに分散し所蔵されている。

中国側はこうした行為を列強による略奪として激しく非難している。一方、西洋や日本の学者の中には、文物の管理の進んだ外国の博物館に保存することをよしとする意見もある。しかし、例え

ばシルクロードの**ベゼクリク千仏洞**で、壁画がもの見事に剥ぎ取られている跡を見たときに、私はやはり略奪という言葉の思い浮かべざるをえなかった。

略奪と破壊は中国人自身の手によっても行われた。中国で見かける仏像のほとんどすべてが、目や鼻のない無惨な姿になっているのは、25年あまり前の文化大革命の傷跡である。

中国の博物館ならどこにでも展示されているものに、「マルクス主義教条」がある。改革開放の中国ではめったにお目にかかることのなくなったかつての共産主義の理想とその教条が、数十年前の化石状態で、博物館には堂々と陳列されている。例えば天安門広場の東側にある**中国歴史博物館**は、原始共産制から始まり、偉大な毛主席による革命で終わっている。様々な歴史的遺物が、貴族の人民に対する搾取の証として展示されている。同時に垣間見えるのは、漢民族中心主義である。ウルムチの**新疆ウイグル自治区博物館**では、「漢の武帝は当時圧迫されていた中央アジアの人民を解放した」という記述に出会った。漢民族による周辺民族の征服を、このように説明してしまうところに、中国の抱える欺瞞を見ないわけにはいかない。

そして、中国の近代史と切り離すことができないものとして、また我々一方の当事者として、北京市蘆溝橋の**中国人民抗日戦争記念館**や南京大屠殺記念館を忘れることはできない。

中国の博物館をめぐる感じるのは、決して悠久の歴史への誘いだけではない。私が中国の博物館で見たのは、近代国家の成立に困難を伴った中国の産みの苦しみであり、また現代中国の姿そのものであったようだ。



〔写真2は、清代の石碑に紅軍が残した抗日戦参加を訴えるスローガン。近代史、中国共産党史の史料として展示されていた。四川省広元市にて〕

(教養部 講師)